

木祖村の魅力ポイント

■面積 140.50km² ■人口 約2,700人 ■指定地域 過疎・振興山村・辺地・特定農山村

- 名古屋市に流れ込む木曽川源流の里 → “木祖”村
- 面積の大部分は山林が占める山間地域（林野率91.19%）
- 高原野菜「御嶽はくさい」の産地 ⇒ 漬物へ
- 標高1,000m以上の畑で育つトウモロコシも甘くて人気
- 古くから伝統工芸品「お六櫛」をはじめとした木製品工業が盛ん
- 夏は「こだまの森」でキャンプやスポーツ等のアウトドア、冬は「やぶはら高原スキー場」でのレジャー、また日本遺産に認定された「中山道鳥居峠」「水木沢天然林」等のトレッキング、ダム湖カヌー体験などの自然資源を活かした観光に力を入れている。



□ 木曽川上下流交流事業を積極的に推進

- ・ 下流から毎年、農業体験や味噌川ダムのカヌーで大勢の観光客 ✓ 名古屋市200万人！
- ・ 名古屋市内にアンテナショップを設置し、木祖村をPR ✓ 継続的な交流が定着！



特産物の高原野菜「御嶽はくさい」



夏のキャンプ等を中心とした「こだまの森」



伝統工芸品「お六櫛」

木祖村の課題

■ 政策分野 移住・定住推進（空き家対策等）・鳥獣被害対策

■ 移住・定住推進に係る施策

- ・ 空き家…人口減少に伴い、空き家が増加。所有者・移住者の間で売却や賃貸の意向が異なり、うまく合意に至らず利活用が思うように進まない。

（→空き家の賃貸物件が少ないため、移住希望者は賃貸の村営住宅を選ぶことが多い。一方、村営住宅の供給も追いつかないため、移住希望者がいても受け入れるのが難しい現状にある。）

- ・ 地域の魅力発信、移住後の持続性、地域づくり人材の発掘等についても課題感。

■ 鳥獣被害対策…森林に囲まれた木祖村において、様々な鳥獣による被害が生じている。

（→被害を防ぐ防除器具への補助制度等により対策を行っているが、鳥獣の住処となる縁辺部の農地の扱いなど課題を抱えている。）

応援隊の活動報告

これまでの活動

- 2021年8月 現地に赴いて現状を確認
- 2022年1月 Web会議

今後の方針

- 状況を更に具体的に把握し、空き家対策の好事例・鳥獣被害対策の関連施策の紹介、魅力発信のアイデアについての意見交換等について進めていく。